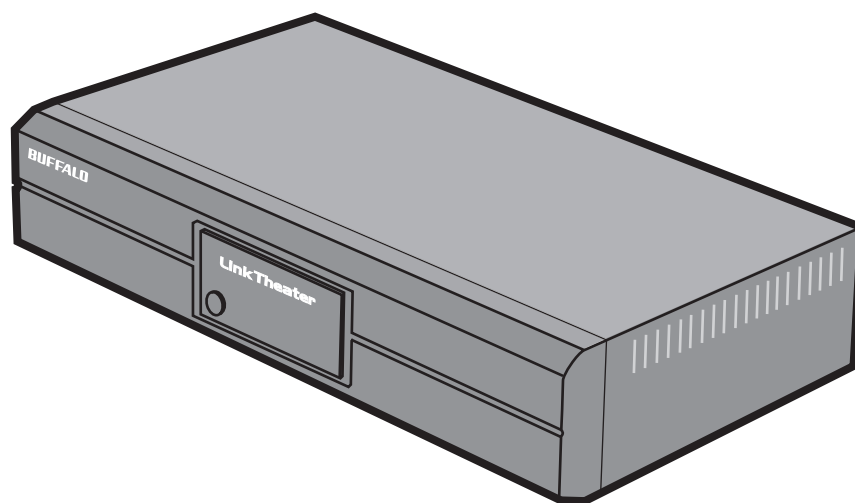
BUFFALO

リンク シアター
LinkTheater mini

ネットワークメディアプレーヤー

PC-P1LAN

ユーザーズマニュアル

使ってみよう

詳細設定

付録

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク ……… ⚠注意 に続く説明文は、製品を取り扱う際に特に注意してすべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク… ↘次へ に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

文中の用語表記

・　本書では、次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
A: フロッピードライブ
C: ハードディスク
E: CD-ROM ドライブ

・　文中[　]で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。

・　文中 <　> で囲んだ名称は、キーボード上のキーを表しています。（例）<Enter>

■本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
・医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。
・一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

目次

使ってみよう

詳細設定

付録

使ってみよう

本製品の使いかたや、設定方法について説明しています。

制限事項

起動画面が表示されない、本製品でパソコンが認識できないときは

ファイアウォールの機能が有効となっている場合、本製品でパソコンが認識できないことがあります。このようなときは、ファイアウォール機能を無効にするか、ポートの使用を許可するか、ファイアウォールを設定しているソフトをアンインストールしてください。【P36】

LinkStation/TeraStation などのデータ再生について

「はじめにお読みください」ステップ 3 のメディアサーバ設定で、ネットワークドライブ (LinkStation や TeraStation など) のフォルダを追加すると、ネットワークドライブのデータを本製品で再生することができます。
この場合、以下の制限がありますのでご注意ください。

●追加したフォルダに大量の写真データがあると、サムネイル生成時にネットワーク負荷がかかるため、動画、音楽再生時にコマ落ちや途切れなどが発生することがあります。
大量の写真データが保存されているフォルダを追加しないことをおすすめします。

再生できるファイルの種類

本製品で再生できるファイルの種類は、次の通りです。

Media Server のトランスコード対応形式（※ 1、2）		・AVI(※ 3)、 WMV、WMA、GIF
対応コンテンツ形式		・ MP3, WAV(非圧縮) のいずれかでエンコードされたオーディオファイル ・ JPEG, BMP, PNG のいずれかで保存／圧縮された画像ファイル ・ MPEG-2 形式でエンコードされた動画ファイル
対応動画フォーマット形式	映像部デジタル圧縮形式	・ MPEG-2 標準解像度 (*.MPG ファイル、m2p ファイル) 最大解像度 720x480 最大 8Mbps（※ 2、4)、 最大フレームレート 30fps
	音声部デジタル圧縮	・MPEG-1 Audio Layer 2　2 チャンネル ・MPEG-1 Audio Layer 3　2 チャンネル
	音声部デジタル非圧縮	・リニア PCM　2 チャンネル (S/P DIF)　16bit , 48kHz
対応音声フォーマット形式		・リニア PCM(*.WAV) ・MPEG-1 Audio Layer-3(*.MP3)
対応画像フォーマット形式		・JPEG（※ 5)、BMP、PNG

※ 1：本製品は MPEG-2、MP3 を再生します。MPEG-2、MP3 以外の形式は自動的にトランスコードして再生します。トランスコードには以下の動作環境が必要となります。

■アプリケーション動作環境
【CPU】Pentium4 1.4GHz 以上または同等性能の互換 CPU　【メモリ】256MB 以上
■動作推奨環境
AVI ファイル 画面サイズ 640x480 ドット 標準画質の場合
【CPU】Windows Vista: 最新のプロセッサ 2.5GHz 以上、
Windows XP/2000: Pentium4 1.8GHz 以上 / Celeron 1.8GHz 以上 / Pentium M 900MHz 以上
Celeron M 1.0GHz 以上または同等性能の互換 CPU を推奨。
【メモリ】Windows Vista:1GB 以上、Windows XP/2000:512MB 以上を推奨。
＊画面サイズ・ビットレートによっては、上記以外の環境でも再生可能な場合もあります。
＊すべての動作を保証するものではありません。
＊ファイルによっては映像と音声がズレて再生されることがあります。
＊トランスコードして再生した場合、早送り・巻き戻し・コマ送り・スロー再生の操作はできません。
＊トランスコードして再生した場合、動画や音楽を停止したところから再開するレジューム機能が働きません

※ 2：映像がコマ落ちするなど滑らかに表示できないときや、ビットレートが 8Mbps 以上の MPEG-2 ファイルを再生したいときは、あらかじめ P7 の手順でファイルを変換してください。

※ 3：AVI ファイルの再生に必要な CODEC がパソコンにインストールされている必要があります。

※ 4：本製品を 11Mbps の無線 LAN で接続した場合、または USB1.1 の機器から再生した場合、3Mbps 以上のファイルではコマ落ちや音とびが発生することがあります。

※ 5：ベースライン JPEG のみ使用できます。

上記に記載のファイル以外は再生できません。

再生できない主なファイル形式は以下の通りです。
・Real Media 形式の動画や音声（rm, ra, ram, rmvb）
・QuickTime 形式の動画（qt, mov）　・MPEG4 形式の動画（mp4, mpg）
・MPEG2-TS 形式の動画　・PAL 方式の動画　・GIF アニメーション

※接続するサーバーによって再生可能な形式に違いがあります。
詳しくは弊社ホームページ (buffalo.jp) の DLNA ガイドライン対応機器との接続確認済み一覧をご覧ください。

再生するフォルダを登録する

本製品でパソコンのファイルを再生するには、パソコンの画面で再生フォルダを登録してください。

1 [スタート]-[(すべての)プログラム]-[BUFFALO]-[MediaServer]-[BUFFALO メディアサーバ設定]を選択します。

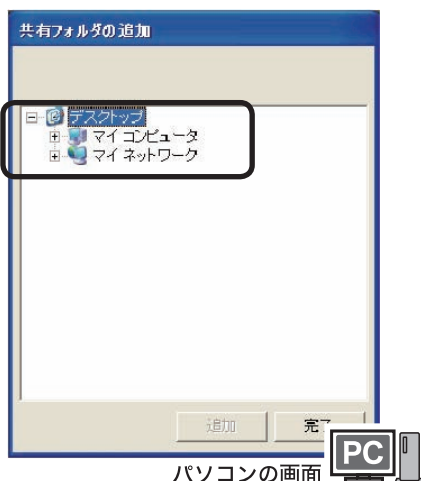
メモ Windows Vista をお使いの場合、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。このようなときは、[続行]をクリックしてください。

2 [共有フォルダ]タブを選択し、[追加]をクリックします。

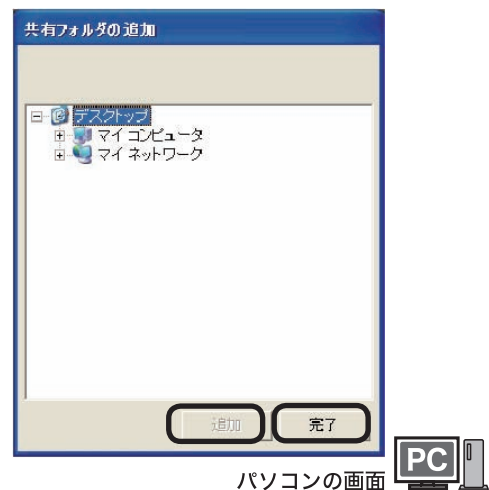
パソコンの画面

※本書では、テレビ画面とパソコン画面のどちらの画面を説明しているのか分かるよう、パソコン画面に パソコンの画面 PC と案内しています。
※本書に掲載されている画面は表示例です。お使いの環境によって表示は異なります。

3 再生したいファイルがあるフォルダを選択します。

パソコンの画面

メモ ネットワークドライブ(LinkStation や TeraStation など)のフォルダを追加すると、ネットワークドライブのデータを本製品で再生することができます。

4 [追加]→[完了]の順にクリックします。

パソコンの画面

5 追加したフォルダが表示されます。

パソコンの画面

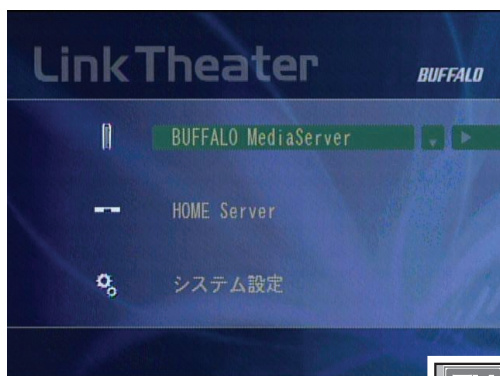
メモ 画面を閉じるときは、タイトルバー右の ✕ をクリックしてください。

以上で再生フォルダの設定は完了です。

データをテレビで再生する

次のようにパソコンやサーバのデータをテレビで再生することができます。

⚠注意
- **本製品は MPEG-2、MP3 を再生します。MPEG-2、MP3 以外の形式は自動的にトランスコードして再生します。タスクトレイのアイコンを右クリックし表示されたメニュー [画質] で、画質を変更することができます。カスタム画質については、P7、8 に記載と同じ内容です。**
- **テレビの入力選択は「ビデオ」にするなど本製品を接続した入力端子からの表示ができる状態にしてください。**
- **ファイルによっては再生できない、または音ズレが起きる場合があります。**
- **別途、各再生ファイルに対応したコーデックが必要です。**
- **トランスコードには P3 に記載の動作環境が必要となります。**

1 テレビに表示されているログイン画面で、[BUFFALO MediaServer] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

※本書では、テレビ画面とパソコン画面のどちらの画面を説明しているのか分かるよう、テレビ画面に テレビの画面 TV と案内しています。
※本書に掲載されている画面は表示例です。お使いの環境によって表示は異なります。

2 再生したいジャンルを選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

3 再生したいファイルを選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

選択したファイルが再生されます。再生を停止するには、リモコンの停止ボタンを押してください。

メモ **フォルダを選択してリモコンの [選択・再生] ボタンを押すと、フォルダの中のファイルが連続再生されます。**

以上でデータの再生は完了です。

リモコンの [設定] ボタンを使う

各選択画面でリモコンの [設定] ボタンを押すと、次の操作を行うことができます。

ログイン画面を表示した状態
[設定] 画面が表示されます。

ビデオのフォルダを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
フォルダの詳細情報	フォルダ名を表示します。
表示順の変更	リスト表示順序（登録順、アルファベット順）を変更します。

ビデオファイルを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
ビデオの詳細情報	ビデオタイトルを表示します。
表示順の変更	リスト表示順序（登録順、アルファベット順）を変更します。

音楽トラックを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
トラックの詳細情報	トラックの詳細情報（ジャンル、アーティスト、アルバム名、タイトル [トラック名]、作成日時、再生時間）を表示します。
選択したトラックの登録	選択したトラックをプレイリスト（またはジャンル、アーティスト、アルバム）に追加します。

音楽アルバムを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
アルバムの詳細情報	アルバムの詳細情報（ジャンル、アーティスト、タイトル [アルバム名]）を表示します。
選択したアルバムの登録	選択したアルバムをプレイリスト（またはジャンル、アーティスト）に追加します。

音楽アーティストを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
アーティストの詳細情報	アーティストの詳細情報（ジャンル、タイトル [アーティスト名]）を表示します。
選択したアーティストの登録	選択したアーティストをプレイリスト（またはジャンル）に追加します。

音楽ジャンルを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
ジャンルの詳細情報	ジャンルの詳細情報（タイトル [ジャンル名]）を表示します。
選択したジャンルの登録	選択したジャンルをプレイリストに追加します。

写真アルバム（フォルダ）を選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
アルバムの詳細情報	アルバム（フォルダ）名を表示します。
表示順の変更	リスト表示順序（アルファベット順、ファイル形式順、登録順）を変更します。

写真ファイルを選択した状態（BUFFALO MediaServer のみ）	
画像の詳細情報	画像の詳細情報（名称、幅、高さ）を表示します。
画像の回転	選択した写真を回転（左回りに回転、右回りに回転、１８０度回転）します。
表示順の変更	リスト表示順序（アルファベット順、ファイル形式順、登録順）を変更します。

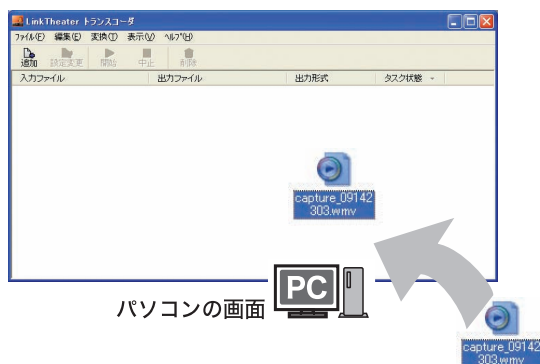
データを変換する

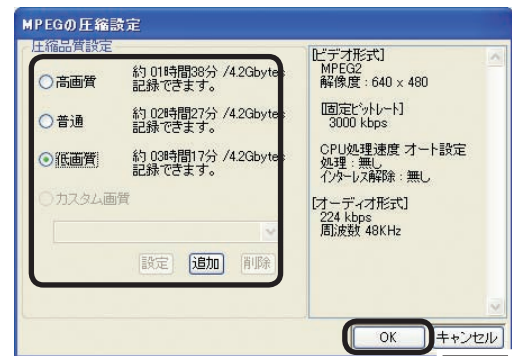
映像がコマ落ちするなど滑らかに表示できないときや、ビットレートが 8Mbps 以上の MPEG-2 ファイルを再生したいときは、あらかじめパソコンで再生できる MPEG-2 ファイルにデータを変換してください。

1 [スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[PC-P1LAN]-[トランスコーダ]-[トランスコーダ] をクリックします。

2 変換したいファイルをドラッグ&ドロップします。

パソコンの画面

3 [詳細設定] をクリックします。

パソコンの画面

4 圧縮品質を選択 (「高画質」を選択しても 8Mbps 以下となります) し、[OK] をクリックします。

パソコンの画面

お好みの画質を個々に詳細の設定をしたいときは、[追加] をクリックし、詳細項目を設定してください。設定した項目は、[カスタム画質] として選択できるようになります。

設定できる項目は次のとおりです。

調整モード

調整モードを固定ビットレート（CBR）、可変ビットレート（CVBR）、固定品質（CQ）から選択します。各モードの特徴は、「用語集」（P40）を参照してください。また、ここで選択したモードによって「レート設定」で設定できる項目が異なります。

ビットレート

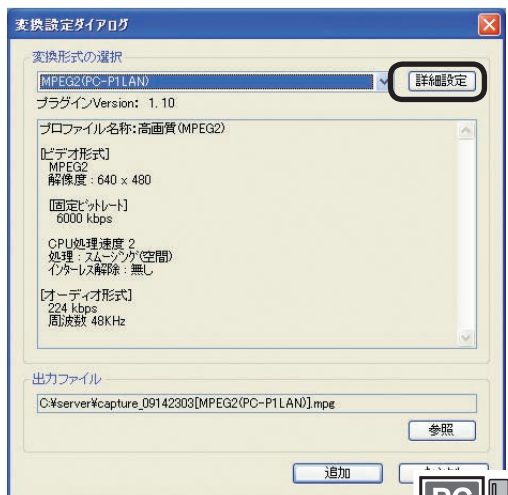
設定する値が大きいほど映像がきれいになりますが、録画したファイルの容量も大きくなります。設定可能範囲は 192 〜 8000(kbps) です。

調整モードで「可変ビットレート」を選択している場合は、ここで設定したビットレートを中心に最大ビットレートから最小ビットレートの範囲で録画します。設定する値は、下で設定する「最大ビットレート」と「最小ビットレート」の範囲に収まるように設定してください。

最大ビットレート

録画するときの最大ビットレートの設定です。調整モードで「可変ビットレート」を選択した場合のみ設定できます。設定可能範囲は、上項目の「ビットレート」の値〜 8000(kbps) です。

最小ビットレート

録画するときの最小ビットレートの設定です。調整モードで「可変ビットレート」を選択した場合のみ設定できます。設定可能範囲は 192(kbps) 〜上項目の「ビットレート」の値です。

高圧縮高画質

調整モードで「固定品質」を選択した場合のみ設定できます。スライドバーをドラッグして画質を設定します。ゲージを高圧縮に近づけるとファイルサイズは小さくなりますが画質が悪くなります。ゲージを高画質に近づけると、ファイルサイズは大きくなりますが高画質となります。

インターレス解除

ボブは、ノイズは残りますがメディアンに比べシャープな画像になります。

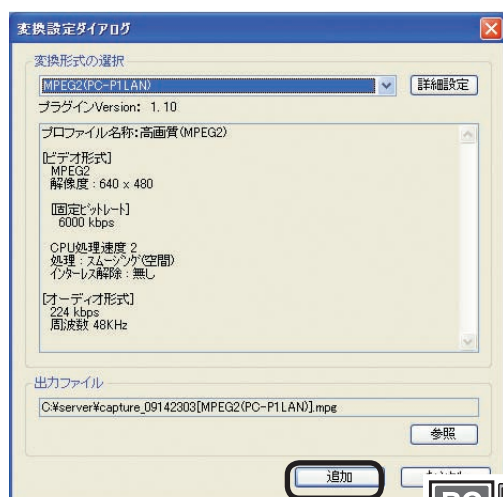
メディアンは、画像をぼかしノイズを除去します。

CPU 処理速度

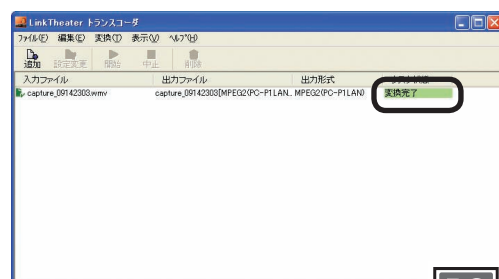
値が高いほど画質が向上しますが、CPU（パソコン）にかかる負荷が大きくなります。通常は、0～2 の値を使用してください。

オーディオビットレート

ビットレートは高ければ高いほど音質はよくなりますが容量も大きくなります。

5 [追加] をクリックします。

パソコンの画面

メモ **[出力ファイル]-[参照] をクリックすれば、変換後のファイルの保存先、ファイル名を指定することができます。初期設定では、変換元ファイルと同じ場所、ファイル名末尾に [MPEG2(PC-P1LAN)]_000 を追加して保存します (000 は同一名ファイルを複数回変換したときカウントアップされた番号となります)。**

6 [タスク状態] が、[変換待ち] → [変換中] → [変換完了] と表示されます。

パソコンの画面

メモ **変換を中止するには、[中止] をクリックしてください。中止したファイルを変換するには [開始] をクリックしてください。**

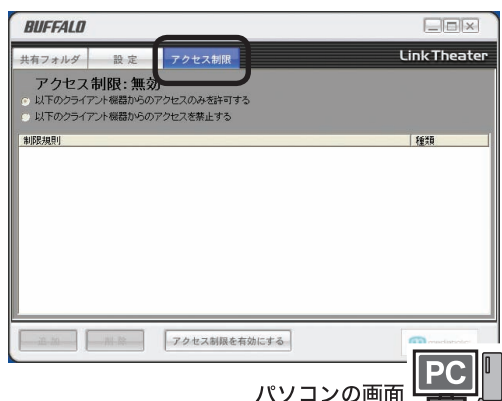
以上でデータの変換は完了です。

アクセス制限を設定する

共有化された再生するフォルダにアクセス制限を設定して、指定した条件でしか再生できないようにすることもできます。設定は次のように行います。

1 [スタート]-[(すべての)プログラム]-[BUFFALO]-[MediaServer]-[BUFFALO メディアサーバ設定]をクリックします。

メモ Windows Vista をお使いの場合、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されることがあります。このようなときは、[続行]をクリックしてください。

2 [アクセス制限]タブをクリックします。

パソコンの画面

3 [アクセス制限を有効にする]をクリックします。

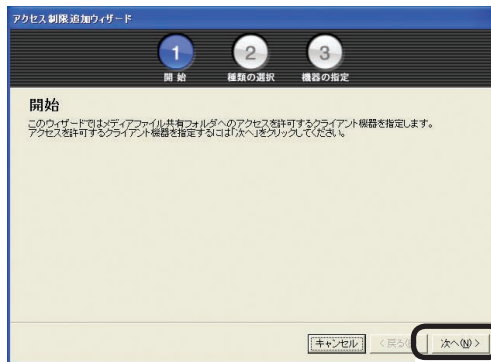
パソコンの画面

4 [以下のクライアント機器からのアクセスのみを許可する]をクリックします。

特定の条件を禁止したいときは、[以下のクライアント機器からのアクセスを禁止する]を選択してください。

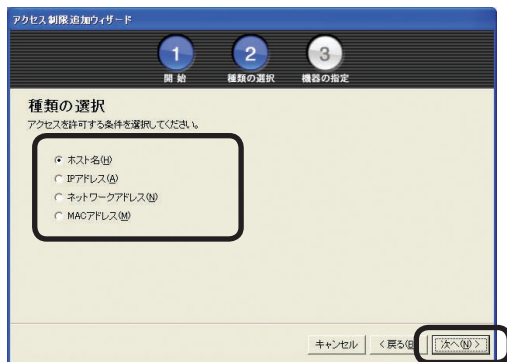
パソコンの画面

5 [追加]をクリックします。

パソコンの画面

6 [次へ] をクリックします。

パソコンの画面

7 アクセス制限する条件を選択し、[次へ] をクリックします。

制限の条件は、ホスト名、IP アドレス、ネットワークアドレス、MAC アドレス (本製品背面にシールで記載されています) から選択できます。

パソコンの画面

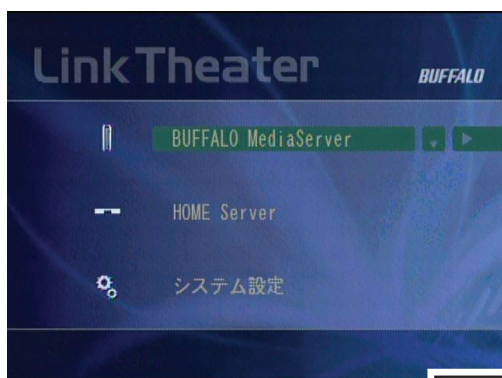
以降は画面の指示にしたがって操作してください。

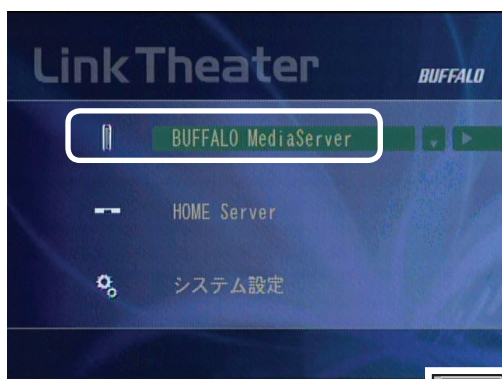
以上でアクセス制限の設定は完了です。

プレイリストを作る

BUFFALO Media Server でプレイリストを作ることができます。
新規にプレイリストを作るか、既存のプレイリストに追加するかで、以下の手順が異なります。

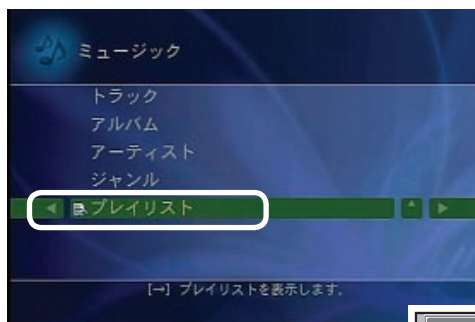
新規にプレイリストを作る場合

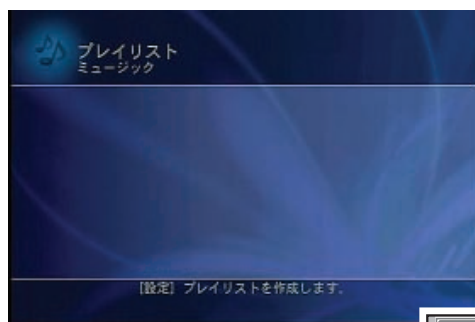
1 本製品の電源ボタンを押して本製品を起動します。

テレビの画面 TV

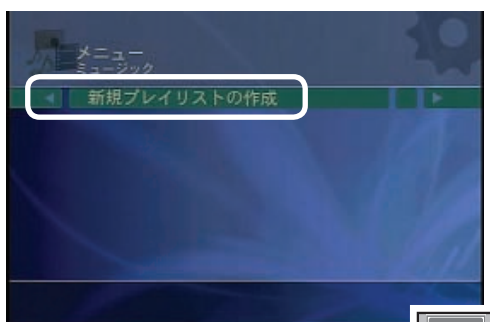
2 [BUFFALO MediaServer] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面 TV

3 [ミュージック] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

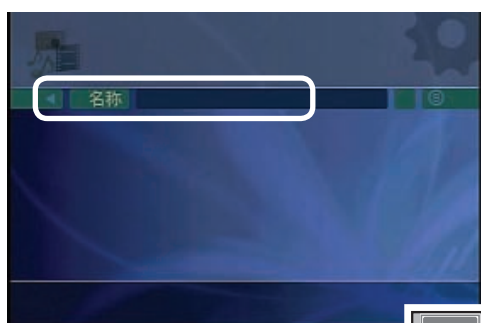
テレビの画面 TV

4 プレイリストを選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面 TV

5 リモコンの [設定] ボタンを押してプレイリストを作成します。

テレビの画面 TV

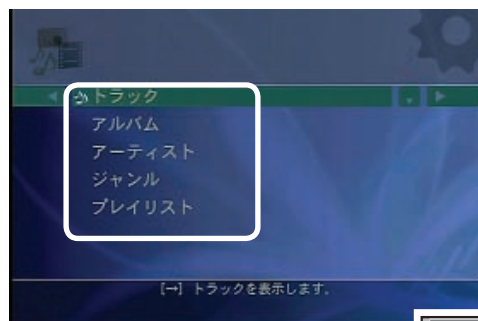
6 [新規プレイリストの作成] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

7 リモコンの [再生・選択] ボタンを押して名称を入力します。

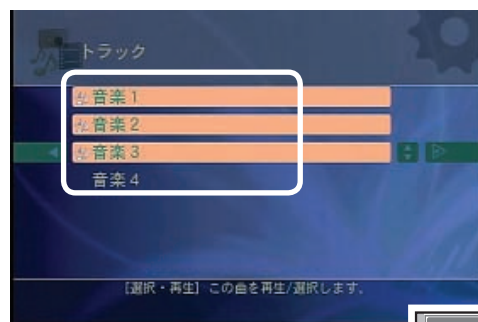
メモ 名称は、テンキーで入力できます。同じボタンを連続して押すことで文字を切り替えることができます。ただし、日本語の入力はできません。

テレビの画面

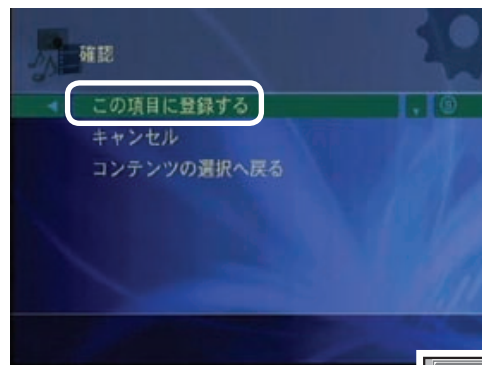
8 プレイリスト名を入力し、リモコンの [再生・選択] ボタンを押して確定します。方向キー▶ボタンを押してプレイリストに追加するコンテンツの選択に移動します。

テレビの画面

9 トラック、アルバム、アーティスト、ジャンル、プレイリストの各項目からプレイリストに追加するコンテンツを選択できます。

テレビの画面

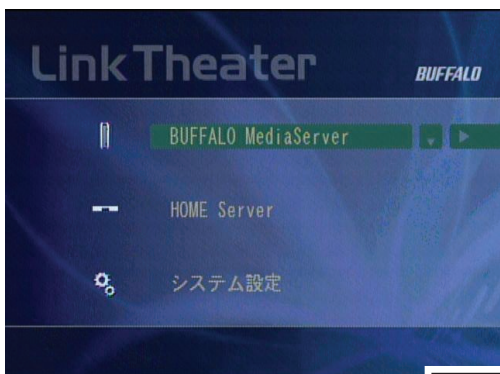
10 プレイリストに追加するコンテンツを [再生・選択] ボタンで選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押して確定します。

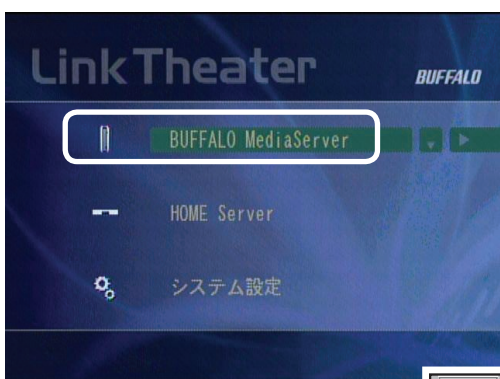
メモ ［プレイリスト］は選択できません。

テレビの画面

11 [この項目に登録する] を選択し、リモコンの [再生・選択] ボタンを押すとプレイリストが作成されます。

テレビの画面

以上で新規のプレイリスト作成は完了です。

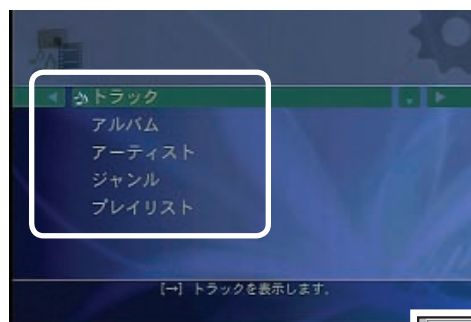
既存のプレイリストに追加登録する場合

1 電源ボタンを押して本製品を起動します。

テレビの画面 TV

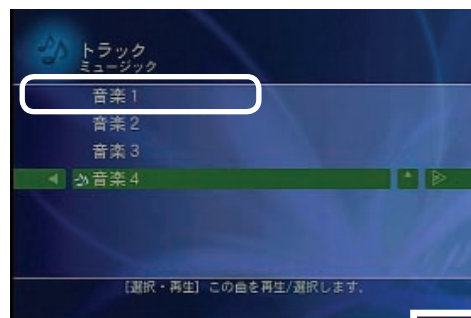
2 [BUFFALO MediaServer] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面 TV

3 [ミュージック] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

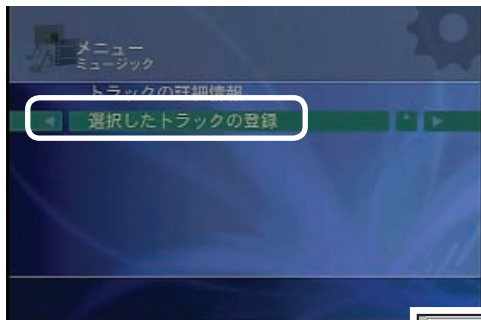
テレビの画面 TV

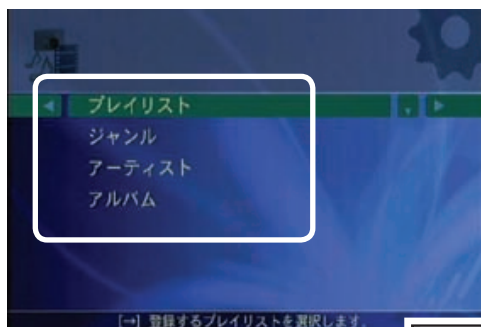
4 トラック、アルバム、アーティスト、ジャンル、プレイリストの各項目からプレイリストに追加するコンテンツを選択できます。

テレビの画面 TV

5 一覧からプレイリストに登録したいコンテンツを選択し、[設定] ボタンを押します。

メモ トラック、アルバム、アーティスト、ジャンルをそれぞれ登録できます。

テレビの画面 TV

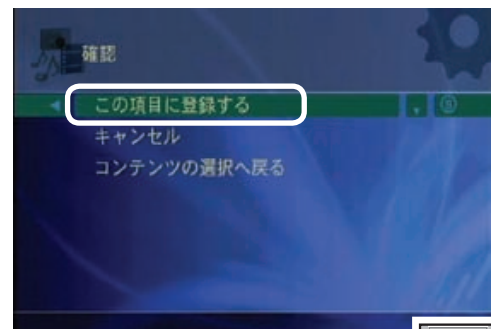
6 [選択したトラックの登録] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押して確定します。

メモ 対象の名前「選択した○○」は、選択したコンテンツによって変わります。

テレビの画面 TV

7 登録先の種別を選択します。種別はプレイリスト、ジャンル、アーティスト、アルバムの中から選択できます。リモコンの方向キー▶ボタンを押して次へ進みます。

テレビの画面 TV

8 登録先を選択 (複数選択可) し、リモコンの [再生・選択] ボタンを押します。リモコンの方向キー▶ボタンを押して次へ進みます。

テレビの画面 TV

9 [この項目に登録する] を選択し、リモコンの [再生・選択] ボタンを押すと選択したトラックがプレイリストに追加されます。

テレビの画面 TV

以上でプレイリストの追加登録は完了です。

DLNA 対応メディアサーバのデータを再生する

DLNA(Digital Living Network Alliance) について

DLNA（デジタル・リビング・ネットワーク・アライアンス）は、デジタル機器 (パソコン・家電・モバイル機器など) の相互接続環境を実現するために業界標準技術の製品設計ガイドライン「ホーム・ネットワーク・デバイス・インターオペラビリティ・ガイドライン」を定めています。

本製品は、DLNA 対応メディアサーバ (弊社製 HS-DGL/DTGL/DHGL/DHTGL シリーズなど) のデータを再生することができます。
LinkTheater のトップ画面で、DLNA 対応メディアサーバを選択し、リモコンの [選択・再生] ボタンを押してください。

DLNA 対応メディアサーバのデータを再生するには、メディアサーバの設定画面でメディアサーバ機能を有効にしてください。設定方法については、メディアサーバのマニュアルをご参照ください。

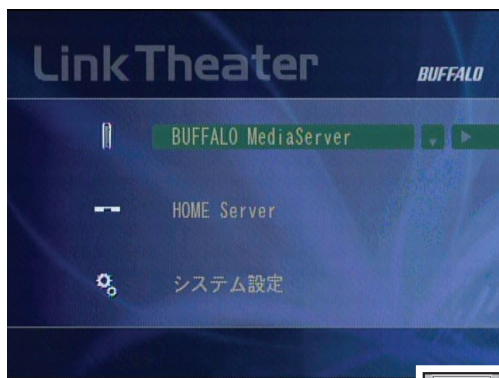
メモ　各社の DLNA 対応メディアサーバのデータを再生するには、LinkTheater のトップ画面で [HOME Server] を選択してください。

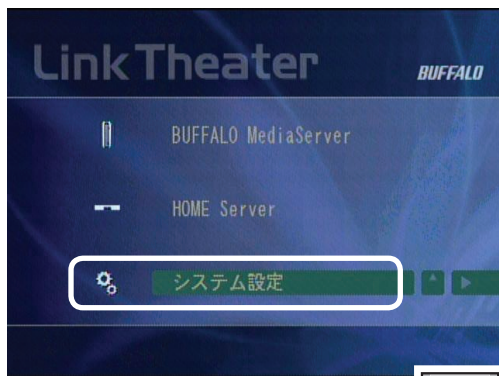
詳細設定

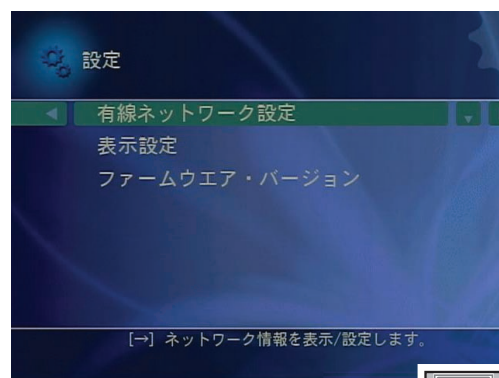
本製品の詳しい設定のしかたについて説明しています。

本製品の詳細設定

本製品の詳細設定を説明します。

1 本製品の電源ボタンを押して本製品を起動します。

テレビの画面

2 [システム設定] を選択し、リモコンの方向キー▶を押します。

テレビの画面

3 各項目の詳細設定を行うことができます。

テレビの画面

- **有線ネットワーク設定**

  [プロファイル編集] では、以下の設定を行うことができます。

  自動取得 (DHCP)：ネットワーク内に DHCP サーバある場合に自動的に IP アドレスを割り当てます。

  手動設定：手動で、IP アドレス、サブネットマスクを入力することもできます。

  [プロファイル選択] で上記で編集した項目を選択し、リモコンの [選択・再生] ボタンを押すと設定が有効になります。

- **表示設定**

  [スクリーンセーバ] では、何も操作しなかったときにテレビ画面にスクリーンセーバを起動する時間 (1 ～ 60 分) を設定できます。

  [フォト表示間隔] では、写真ファイルをテレビ画面に表示する時間 (3 秒～ 2 分) を設定できます。

- **ファームウェア・バージョン**

  ファームウェアのバージョン番号を表示します。

メディアサーバの設定

メディアサーバの設定を行います。本製品で再生できるフォルダの登録、アクセス制限を設定することができます。[スタート]-[(すべての)プログラム]-[BUFFALO]-[MediaServer]-[BUFFALO メディアサーバ設定]をクリックすることで設定画面を表示できます。

共有フォルダ画面

パソコンの画面

• **追加**

再生したいファイルがあるフォルダを登録します。

• **削除**

フォルダを選択し、[削除]をクリックすると、共有フォルダの登録が解除されます。

• **更新**

共有フォルダ、およびファイルの表示が更新されます。

• **自動検索**

自動検索ウィザードが起動します。パソコン内の動画、音声、画像ファイルが保存されているフォルダをウィザードにしたがって共有フォルダとして登録することができます。

設定画面

パソコンの画面

• **コンピューター起動時にファイル共有を有効にする**

パソコン起動時にファイル共有が有効になるよう設定します。

• **プログラム終了時にアイコンをタスクトレイに表示する**

「メディアサーバの設定」終了時にタスクトレイにアイコンを表示するようにします。

• **デフォルト設定**

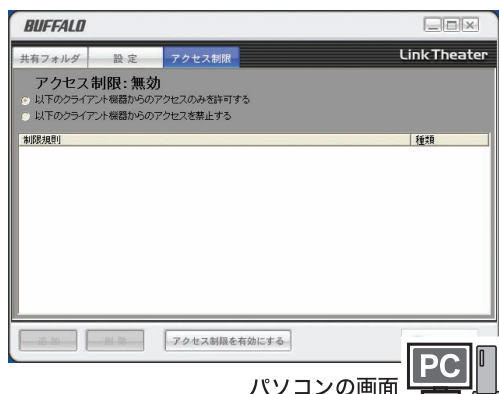
メディアサーバの設定を初期設定に戻します。

• **ファイルを共有しない**

ファイル共有を無効にします。

• **ファイルを共有する**

ファイル共有を有効にします。

アクセス制限画面

パソコンの画面

- **アクセス制限を有効にする**

  アクセス制限を有効にします。すでに有効になっているときには表示されません。

- **アクセス制限を無効にする**

  アクセス制限を無効にします。すでに無効になっているときには表示されません。

- **以下のクライアント機器からのみアクセスを許可する**

  [制限規則] に表示された条件からのアクセスのみ許可します。

  アクセス制限が無効のときは選択できません。

- **以下のクライアント機器からのアクセスを禁止する**

  [制限規則] に表示された条件からのアクセスを禁止します。

  アクセス制限が無効のときは選択できません。

- **追加**

  アクセス制限追加ウィザードを起動します。

  許可 / 禁止する条件 (ホスト名、IP アドレス、ネットワークアドレス、MAC アドレス) をウィザードにしたがって設定できます。

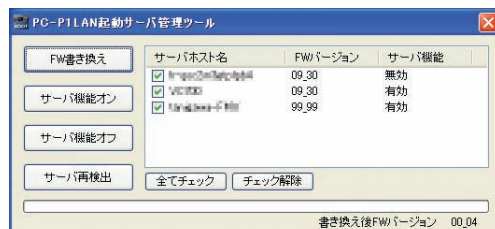
  アクセス制限が無効のときは選択できません。

- **削除**

  [制限規則] に表示された条件を選択し、[削除] をクリックすると条件を削除することができます。

起動サーバ管理ツールの設定

起動サーバの管理ツールでファームウェア (FW) の書き換え、サーバ機能の有効 / 無効を設定することができます。[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[PC-P1LAN]-[起動サーバ管理ツール] をクリックすることで起動することができます。

共有フォルダ画面

パソコンの画面

- **サーバ再検出**

  ネットワーク上の起動サーバを再検出します。

- **全てチェック**

  検出されたサーバのチェックボックス全てにチェックマーク表示します。

- **チェック解除**

  全てのチェックマークの表示を消します。

- **FW 書き換え**

  チェックマークの表示されたサーバのファームウェアを書き換えます。

  [書き換え後 FW バージョン] に書き換え後のバージョン番号が表示されます。

- **サーバ機能オン**

  チェックマークの表示されたサーバを有効にします。

- **サーバ機能オフ**

  チェックマークの表示されたサーバを無効にします。

  ※すべての起動サーバのサーバ機能を OFF にしないでください。PC-P1LAN の起動画面が表示されなくなります。

付録

ルータの無い環境での手動設定手順、ファームウェアのアップデート方法、LinkStation のデータを再生する方法、困ったときは、仕様について説明しています。

ルータをお持ちでない方へ（IP アドレスを手動で設定する手順）

ここでは、パソコンの IP アドレスを確認し、本製品の IP アドレスを手動で設定する手順を説明します。付属ソフトをインストールしたパソコンを認識しないときや、インターネットをお使いの環境でルータを使用していない（DHCP サーバ機能がない）場合のみ行ってください。

メモ　画面で表示される数字や文字はお使いの環境によって異なります。

パソコンの IP アドレスを確認する

1　以下のメニューをクリックして、コマンドプロンプトを起動します。

[スタート] ー [(すべての) プログラム] ー [アクセサリ] ー [コマンドプロンプト] を選択します。

2　画面に「C:¥>」と表示されます。「IPCONFIG /ALL」と入力し、<ENTER> キーを押します。

3　「IP Address(IPv4 アドレス)」欄と「Subnet Mask(サブネットマスク)」欄に、IP アドレスとサブネットマスクが表示されます。

※下記画面は Windows XP での例です。

```
C:¥>IPCONFIG /ALL
Ethernet adapter ローカルエリア接続
IP address                              : 192.168.11.2
Subnet Mask                             : 255.255.255.0
Connection-specific DNS Suffix     :
Description                             : BUFFALO LGY-PCI-TXD Ethernet Adapter
Physical Address                        :
DHCP Enabled                            : Yes
Default Gateway                         : 192.168.0.1
DNS Servers                             : 192.168.0.1
```

確認

以上でパソコンの IP アドレス確認は完了です。
続いて P21 の手順で本製品の IP アドレスとサブネットマスクを設定します。
本製品に設定する IP アドレスやサブネットマスクの値は、P20 の「本製品に設定する IP アドレスの値は？」と「本製品に設定するサブネットマスクの値は？」を参照してください。

本製品に設定するIPアドレスの値は？

本製品のIPアドレスには、以下のような値を設定します。

パソコンのIPアドレス
192.168.11.2　の場合

本製品のIPアドレス
192.168.11.12　に設定します。

同じ値にする

1～254の数字でパソコンと違う値にする

本製品に設定するサブネットマスクの値は？

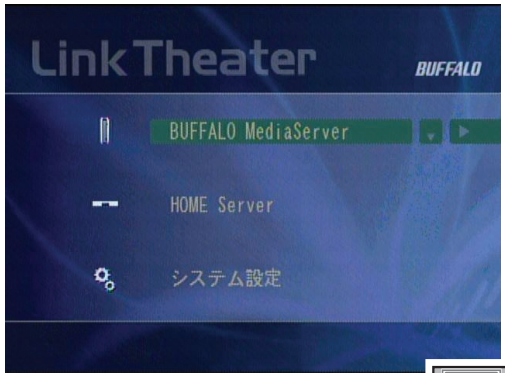
本製品のサブネットマスクは、パソコンのサブネットマスクと同じ値を設定します。

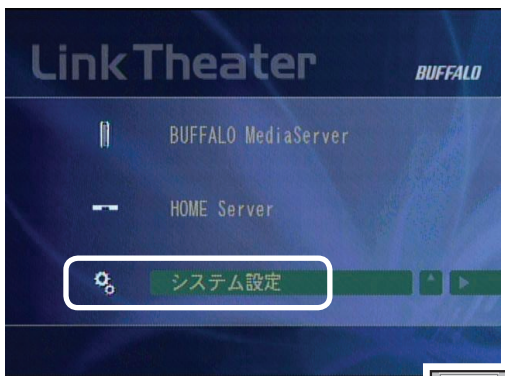
パソコンのサブネットマスク
255.255.255.0　の場合

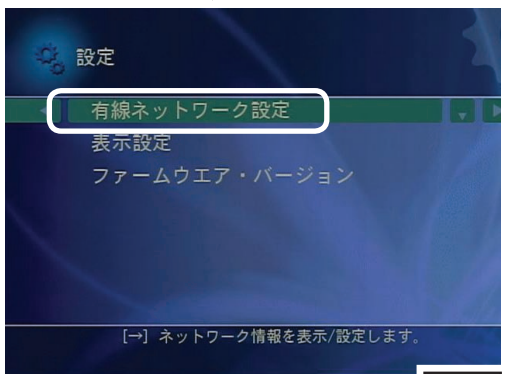
本製品のサブネットマスク
255.255.255.0　に設定します。

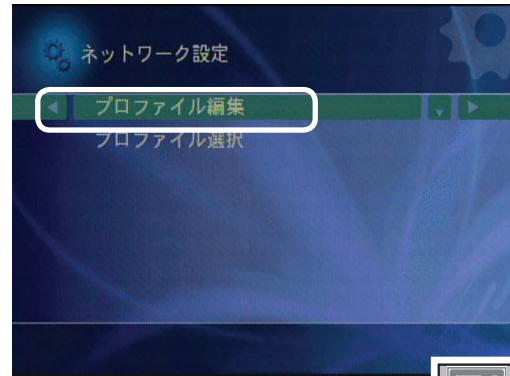
同じ値にする

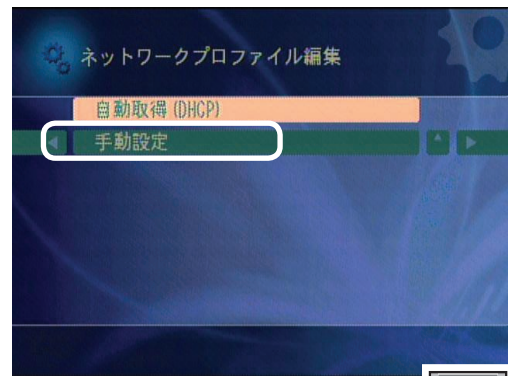
本製品の IP アドレスを設定する

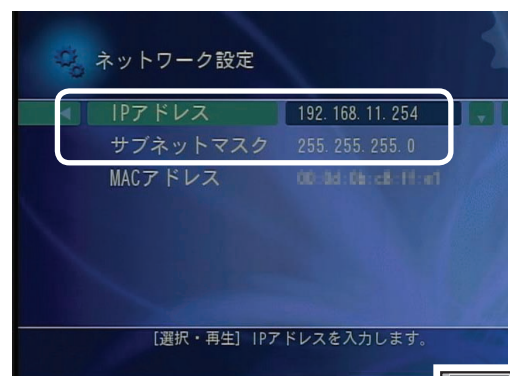
1 本製品の電源ボタンを押して本製品を起動します。

テレビの画面

2 [システム設定] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

3 [有線ネットワーク設定] を選択し、方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

4 [プロファイル編集] を選択し、方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

5 [手動設定] 選択し、方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

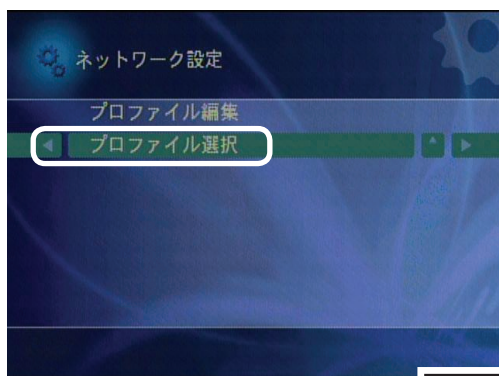
6 IP アドレスとサブネットマスクを入力し、[選択・再生] ボタンを押します。

テレビの画面

⚠注意 **IPアドレスがパソコンの値と重複しないようにしてください。設定する値がわからないときは、P20の「本製品に設定するIPアドレスの値は？」と「本製品に設定するサブネットマスクの値は？」を参照してください。**

例： パソコンのIPアドレスが「192.168.11.2」サブネットマスクが「255.255.255.0」の場合、本製品のIPアドレスは「192.168.11.12」サブネットマスクは「255.255.255.0」に設定します。

メモ **IPアドレス、サブネットマスクは、リモコンのテンキーで入力します。「.（ピリオド）」は、[1]ボタンを2回連続して押すことで入力できます。**

7 方向キー◀ボタンを2回押し、手順4の画面に戻ります。

8 [プロファイル選択]を選択し、方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面 TV

9 [手動設定]選択し、[再生・選択]ボタンを押します。

テレビの画面 TV

以上で本製品のIPアドレスの設定は完了です。

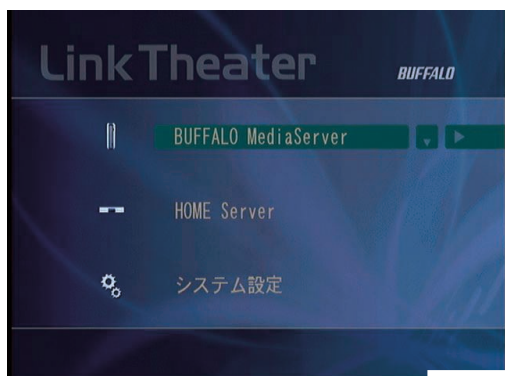
「Link de 録 !!」でお使いになるには

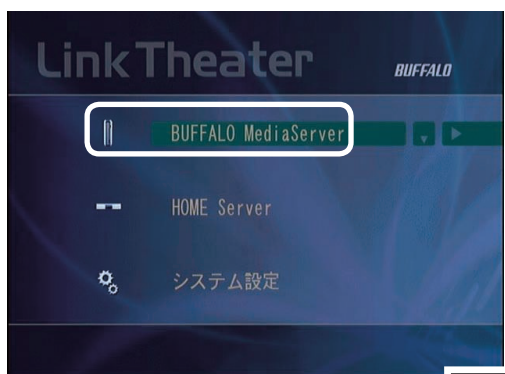
「Link de 録 !!」とは、別売の USB キャプチャ BOX と LinkStation および TeraStation(以降、本書では合わせて LinkStation と表記します) を組み合わせて、パソコンを使わずにテレビ番組を録画するのが「Link de 録 !!」システムです。本製品を使うと DLNA 対応のホームサーバモデル LinkStation(HS-DGL/HS-DTGL/DHGL/DHTGL シリーズ) を使った「Link de 録！！」で録り貯めたテレビ番組を再生したり、テレビ画面からリモコン操作で録画予約の設定ができます。

LinkStation・USB キャプチャ BOX の取り付けと初期設定

LinkStation に USB キャプチャ BOX を取り付けて、LinkStation の設定画面で [メディアサーバ機能] を [使用する] に設定してください。詳しい手順は USB キャプチャ BOX に付属の「LinkStation に接続して使用するには」をご参照ください。

「Link de 録 !!」サーバの選択

1　本製品の電源ボタンを押して本製品を起動します。

テレビの画面

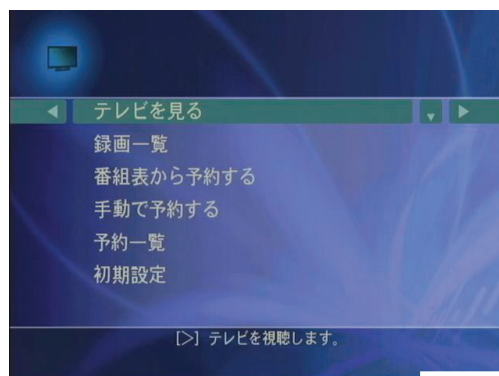
2　[BUFFALO MediaServer] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

3　[Link de 録 !!] を選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

4　表示されたサーバの一覧から、接続したいサーバを選択し、リモコンの方向キー▶ボタンを押します。

テレビの画面

5　サーバ選択後、「Link de 録 !!」のトップ画面が表示されます。

テレビの画面

以上でサーバの選択、「Link de 録 !!」トップ画面の表示は完了です。

テレビを見る

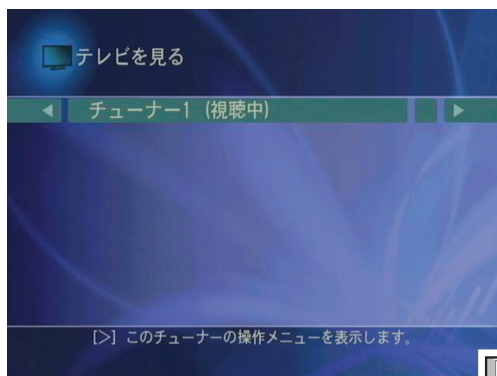
テレビを視聴や録画、追っかけ再生などの操作をしたいときは次のようにしてください。

リモコン操作表

テレビを視聴しているとき、追っかけ再生をしているときのできるリモコン操作は次の通りです。

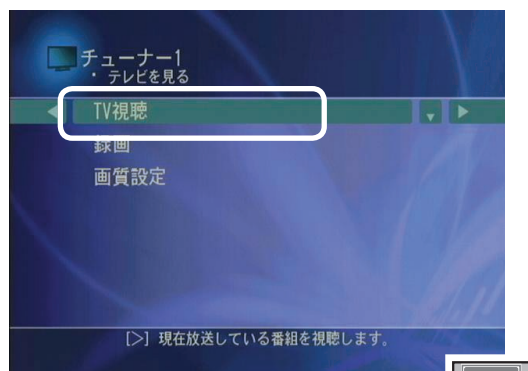
画面	ボタン	操作
TV 視聴中	左、停止	TV 視聴を停止します。
	トラック前、トラック次	チャンネルを切り替えます。
	テンキーボタン	チャンネル番号を入力してチャンネルを切り替えます。 ※ C13 ～ C63 は最初に 0 を入力してください。
TV 視聴中 (他クライアント)	左、停止	TV 視聴を停止します。
追っかけ再生中	左、停止	追っかけ再生を停止します。
	一時停止	追っかけ再生を一時停止します。
	早送り、巻き戻し	再生のスピードを切り替えます。
	コマ送り	再生中はスロー再生します。一時停止中は、コマ送りします。
共通	VOL ＋、VOL －、ミュート	ボリュームを調整します。
	情報表示、詳細	再生中のチャンネルを表示します。
	出力切替	音声を切り替えます。（ステレオ、メイン、サブ）

チューナの状態表示

LinkStation に接続された、TV キャプチャ BOX（１～４）の現在の状態を表示します。状態表示は「チューナー」の文字の右に表示されます。TV キャプチャ BOX の状態により、操作できる内容が変わります。

テレビの画面 TV

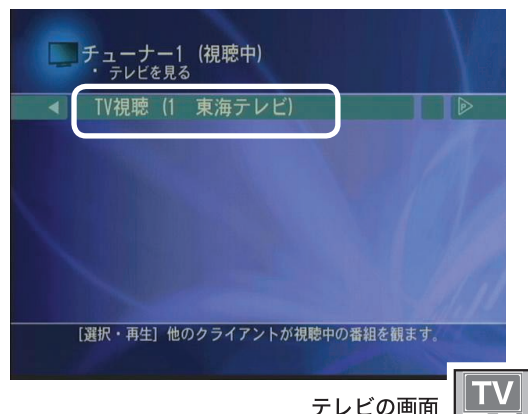
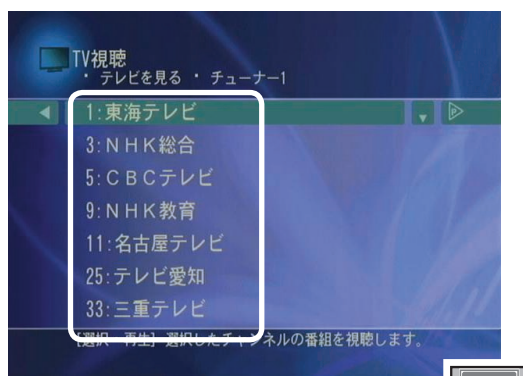
状態表示	詳細	操作
（表示なし）	チューナーが待機中であることを示します。	TV の視聴、録画、チューナーの画質設定を行うことができます。
視聴中	他のクライアント（PC-P3 シリーズ、PC-P2 シリーズ、PCastLink、PC-P1LAN）が既に TV を視聴している状態であることを示します。	他のクライアントで視聴中の番組を視聴することができます。チャンネルの変更はできません
録画中 **予約録画中**	チューナーが録画中または予約録画中であることを示します。	録画中または予約録画中の番組を追っかけ再生することができます。録画を停止することができます。
停止処理中	チューナーが視聴または録画停止処理をしていることを示します。	チューナーの操作はできません。
チャンネルスキャン中	チャンネルの自動スキャンをしている状態を示します。	チューナーの操作はできません。
エラー / その他	チューナーに障害が発生している状態を示します。	チューナーの操作はできません。

TV 視聴

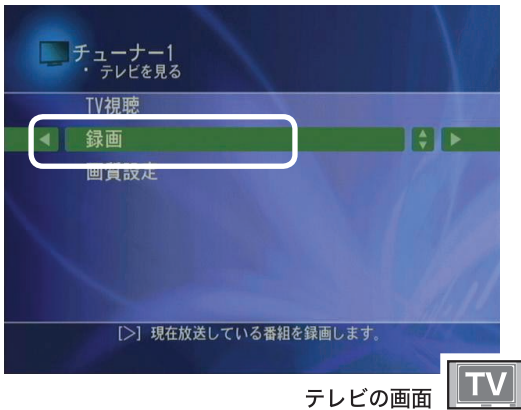
待機中のチューナーを選択し、操作メニューを表示後、[TV 視聴] を選択します。
視聴したいチャンネルを選択すると、TV 視聴を開始します。
TV 視聴中は、リモコンの [トラック前] ボタン、または [トラック次] ボタンで視聴中のチャンネルを切り替えることができます。

テレビの画面

テレビの画面

他クライアントが視聴中の TV 視聴

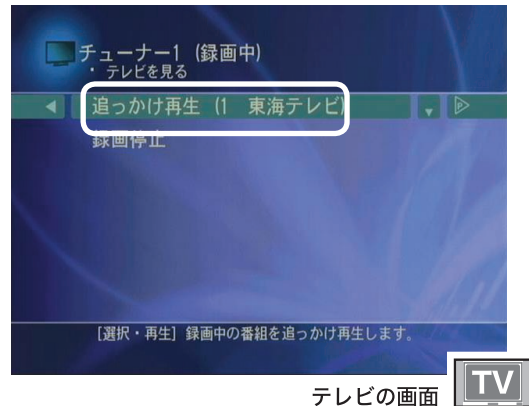
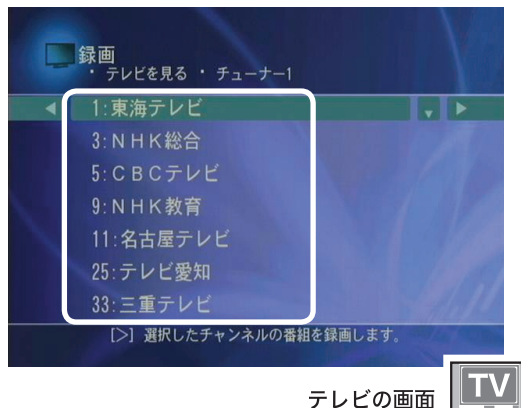
視聴中のチューナーを選択し、[TV 視聴] を選択すると、他クライアントが視聴している番組を視聴できます。チャンネルを切り替えることはできません。

テレビの画面

録画

待機中のチューナーを選択し、操作メニューを表示後、[録画] を選択します。
録画したいチャンネルを選択すると、TV 録画を開始します。

テレビの画面 TV

テレビの画面 TV

追っかけ再生

録画中または予約録画中のチューナーを選択し、[追っかけ再生] を選択すると、録画中の番組を追っかけ再生することができます。
追っかけ再生は常に先頭から再生されます。
[録画停止] を選択すると、録画を停止します。

テレビの画面 TV

画質設定

TV 視聴、録画の画質を設定することができます。【P32】

メモ PC-P1LAN では "MPEG4" 形式で圧縮されたデータを再生することができません。TV 視聴、追っかけ再生時に画面が表示されない場合は、録画形式を "MPEG2" 形式に設定する必要があります。

録画一覧

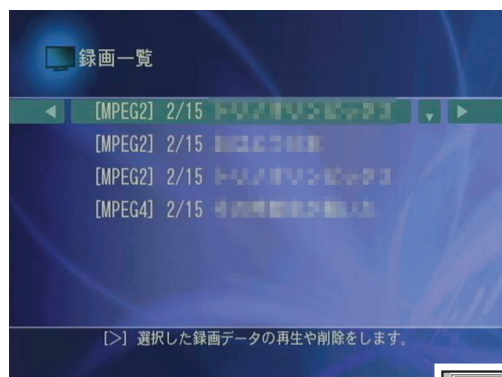
録画した映像を再生したり、削除したいときは次のようにしてください。

リモコン操作表

録画した映像を再生しているときのできるリモコン操作は次のとおりです。

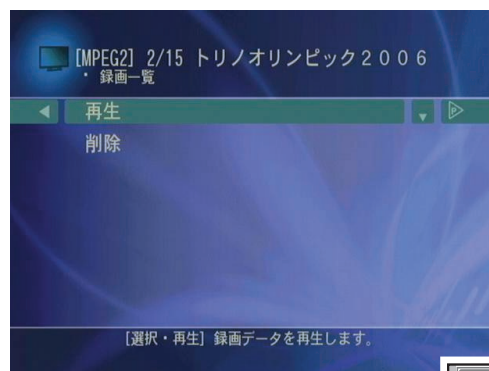
画面	ボタン	操作
再生中	左、停止	再生を停止します。
	トラック前、トラック次	再生中の録画番組を切り替えます。
	早送り、巻き戻し	再生のスピードを切り替えます。
	コマ送り	再生中はスロー再生します。 一時停止中は、コマ送りします。
	一時停止	再生を一時停止します。
	VOL ＋、VOL －、ミュート	ボリュームを調整します。
	情報表示、詳細	再生中のチャンネルを表示します。
	出力切替	音声を切り替え（ステレオ、メイン、サブ）ます。

録画一覧表示

録画された番組の一覧を表示します。
[録画形式] [日付] [番組タイトル] を表示します。

テレビの画面

再生・削除

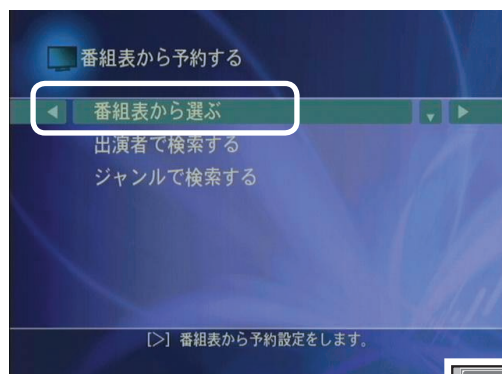
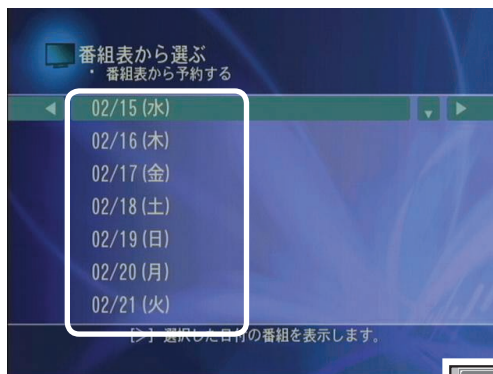
番組を選択し、操作メニューを表示後、[再生] または [削除] を選択します。
再生中は、[トラック前]、[トラック次] ボタンで再生している番組を切り替えることができます。

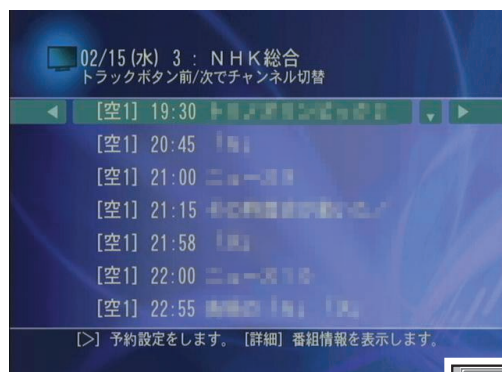
メモ 本機では MPEG4 形式の動画データの再生をサポートしていないため、MPEG4 形式で録画された番組には、再生メニューが表示されません。また、"トラック" ボタンによる操作時もスキップされます。

テレビの画面

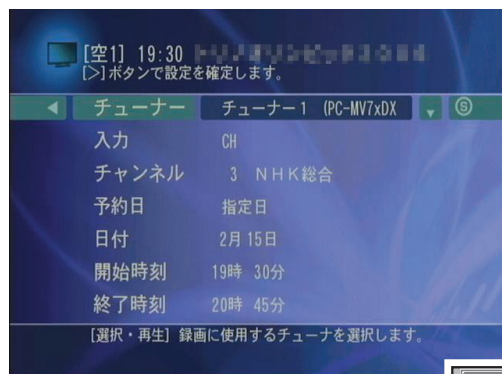
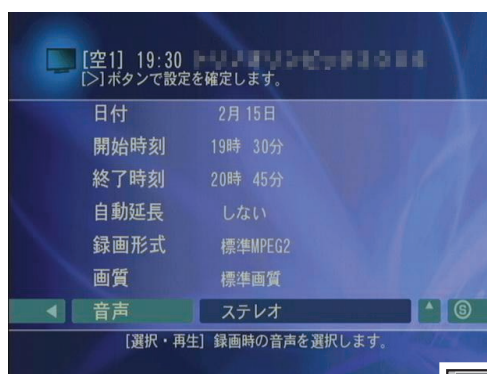
番組表から予約する

EPG 番組表をつかって録画予約したいときは次のようにしてください。

番組表から選ぶ

ここでは、日時から番組表を選択し録画予約する手順を例に説明しています。ほかに出演者名やジャンルで検索することもできます。

テレビの画面

テレビの画面

番組の選択：表示されている番組を選択し、予約を登録画面を表示します。
[トラック前]、[トラック次] ボタンで表示されているチャンネルを切り替えることができます。
[空 1] の 1 はその時間帯で予約登録可能なチューナーの数です。
[空 0] と表示されている番組は、空いているチューナーがないため予約登録できません。

テレビの画面

番組の予約：予約内容を確認し、予約を登録します。
設定内容を変更したい場合は、変更したい項目にカーソルを合わせ、[選択・再生] ボタンを押して編集します。
予約登録をするときは、▶ボタンを押します。
予約登録をしないときは、◀ ボタンを押してリストに戻ります。

テレビの画面

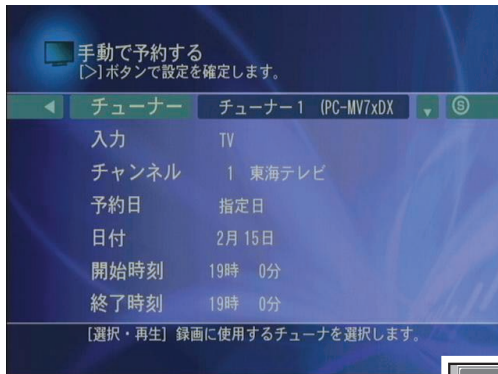
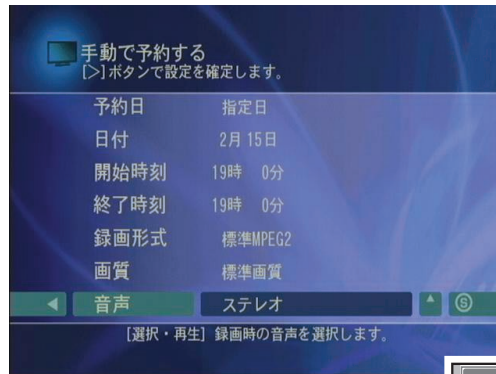
テレビの画面

詳細画面：[情報表示] ボタンを押して、番組の詳細を表示します。

設定項目	設定内容	設定詳細
チューナー	チューナー番号１～４	予約録画を行うチューナーを選択します。
入力	CH(もしくは TV)：アナログ入力 ビデオ：コンポジット入力 S 端子：S 端子入力	予約録画を行う番組の入力設定を選択します。
チャンネル	チャンネル番号	入力が”CH：アナログ入力”の場合に、録画するチャンネル番号を選択します。 入力が”CH：アナログ入力”以外の場合、特に設定する必要はありません。
予約日	指定日：登録した日付に予約します 毎日：登録した日から毎日指定時刻に予約します 毎週：登録した曜日から毎週指定時刻に予約します。 月～金：毎週月曜日から金曜日に指定時刻に予約します。 月～土：毎週月曜日から土曜日に指定時刻に予約します。 火～土：毎週火曜日から土曜日に指定時刻に予約します。 火～日：毎週火曜日から日曜日に指定時刻に予約します。	予約の種類、連続予約の有無を設定します。
日付	指定日付	予約録画を行う日付を設定します。予約日が指定日、毎週の場合に有効となります。それ以外の予約日の場合、特に設定する必要はありません。
開始 / 終了時刻	時間、分	指定の時間、分を設定します。設定したい内容は、”左右”ボタンで切り替えることができます。
自動延長	する / しない	録画の自動延長機能を利用する / しないを選択します。 自動延長の必要がない番組では、”する”は選択できません。
録画形式	MPEG2/MPEG4	録画する形式を選択します。 MPEG4 形式は、PC-MV7x/U2 シリーズ (PC-MV71DX/U2 など) のみ有効です。 ※ PC-P1LAN では、MPEG4 形式で録画された番組は再生できません。
画質	高画質 / 標準画質 / 低画質 /ST 画質	録画する番組の品質を設定します。
音声	ステレオ / 主音声 / 副音声 / 主＋副音声	録画する番組の音声モードを設定します。

手動で予約する

手動で予約したいときは次のようにしてください。

設定内容を変更したい場合は、変更したい項目にカーソルを合わせ、[選択・再生] ボタンを押します。
予約登録をするときは、▶ボタンを押します。
予約登録をしないときは、◀ ボタンを押して、リストに戻ります。

テレビの画面

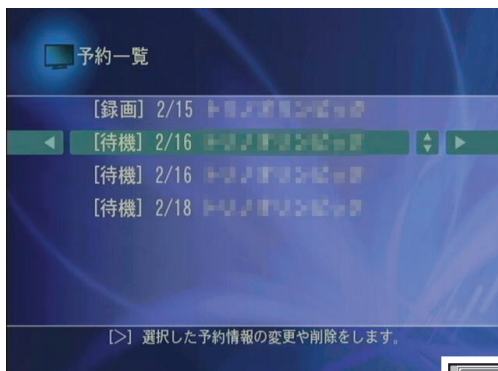
テレビの画面

設定項目の詳細については、27 ページをご参照ください。

予約一覧

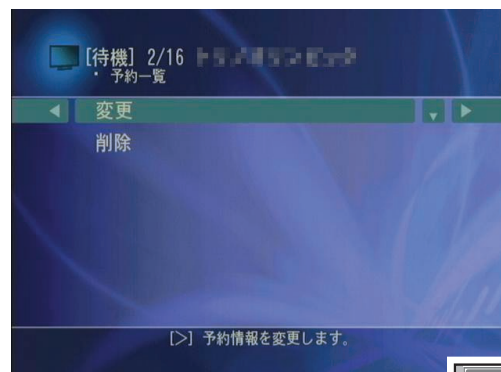
予約一覧から予約を変更、削除したいときは次のようにしてください。

予約一覧

予約している番組の一覧を表示します。
- [待機]：予約録画の待機中です。
- [録画]：予約録画中です。
- [失敗]：予約録画に失敗しています。

テレビの画面

予約変更・削除

予約リストを選択し、操作メニューを表示後、[変更] または [削除] を選択します。

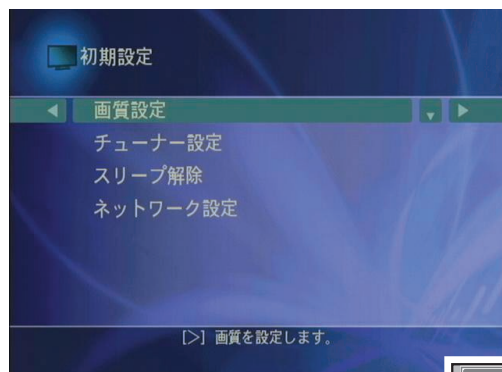
メモ **予約録画中の項目についての変更・削除はできません。**

テレビの画面

設定項目の詳細については、30 ページをご参照ください。

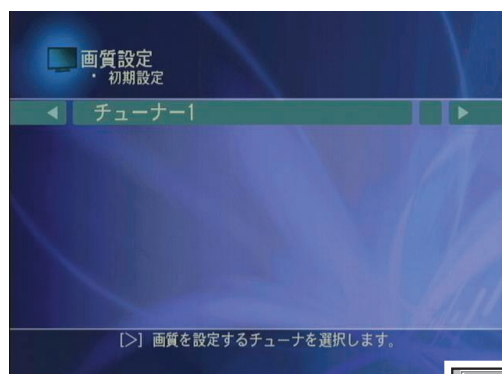
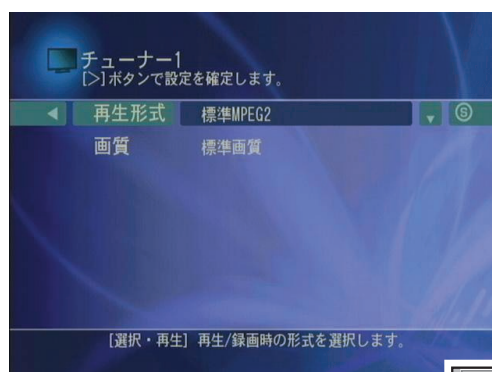
初期設定

「Link de 録 !!」の設定を変更したいときは次のようにしてください。

初期設定

初期設定画面でできる各種設定項目を表示します。

テレビの画面

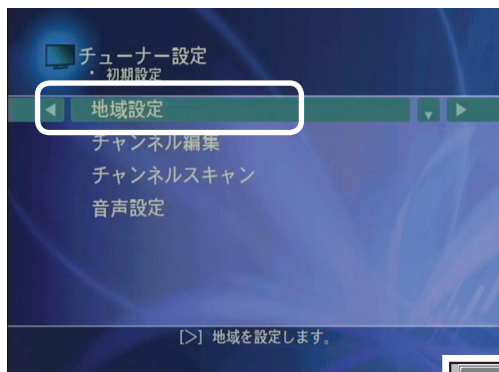
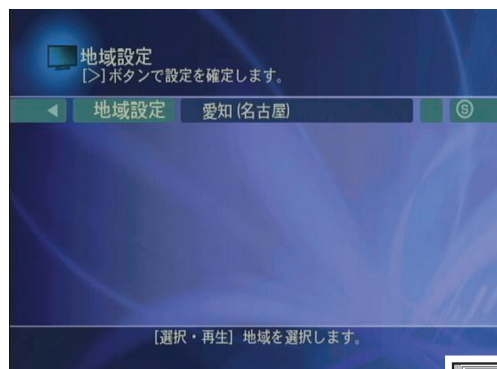
画質設定

[画質設定] を選択し、チューナーを選択します。操作メニューを表示後、再生形式･画質を設定します。

テレビの画面

テレビの画面

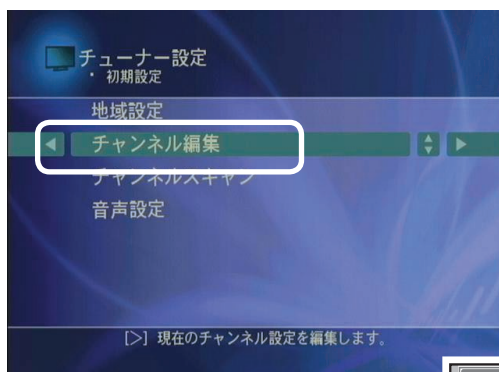
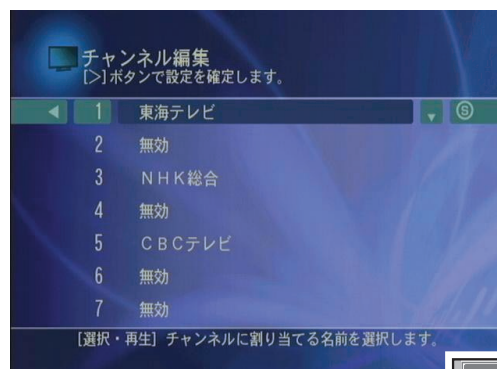
設定項目	設定内容	設定詳細
再生形式	MPEG2/MPEG4	録画・TV 視聴時の形式を選択します。 MPEG4 形式は、PC-MV7x/U2 シリーズ (PC-MV71DX/U2 など) のみ有効です。 ※ PC-P1LAN では、MPEG4 形式で録画された番組は再生できません。
画質	高画質 / 標準画質 / 低画質 /ST 画質	録画・TV 視聴時の画質を設定します。

地域設定

TV チューナーのチャンネル設定を、お住まいの地域に従って設定します。
表示されている地域を設定します。設定を完了させるには、▶ ボタンを押します。

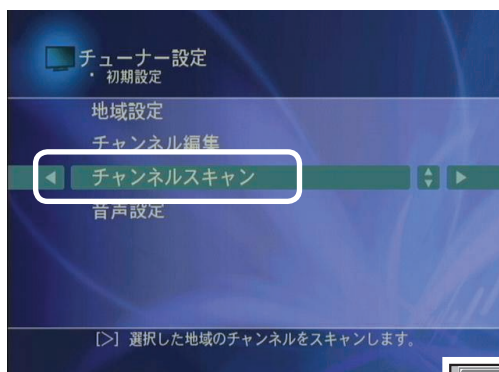
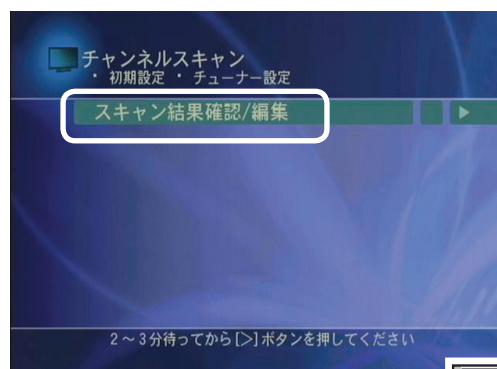
メモ　集合アンテナ・ケーブルテレビをご利用の方、チャンネルの詳細設定を変更される方は、[チャンネル編集] で設定してください。

テレビの画面

テレビの画面

チャンネル編集

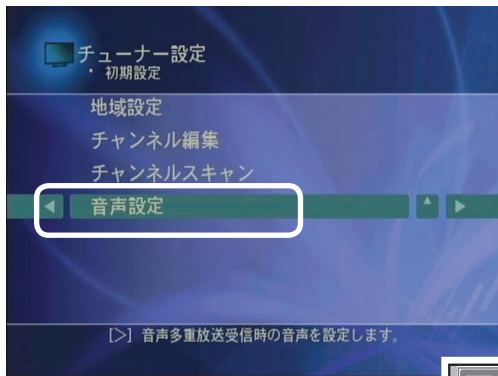
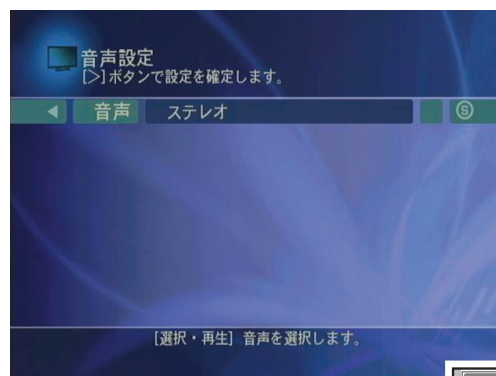
各チャンネルに割り当てる名前と無効なチャンネルを設定します。ここで「無効」に設定したチャンネルは TV 視聴や予約画面で選択できなくなります。設定を完了させるには、▶ ボタンを押します。

テレビの画面

テレビの画面

設定項目	設定内容
チャンネル番号	放送局名、無効、チャンネルを選択します。

チャンネルスキャン

地域設定で選択した地域のチャンネルをスキャンし、自動的にチャンネルを設定します。[チャンネルスキャン] を選択し、▶ ボタンを押すとチャンネルスキャンが開始されます。2 ～ 3 分待ってから [スキャン結果確認 / 編集] で ▶ボタンを押すとスキャン結果が表示され、[チャンネル編集] と同様に編集できます。

テレビの画面

テレビの画面

音声設定

TV 視聴、録画時の音声モードを設定します。

テレビの画面

テレビの画面

設定項目	設定内容	設定詳細
音声	ステレオ / 主音声 / 副音声 / 主＋副音声	TV 視聴・録画する際の音声モードを設定します。

スリープ解除

初期設定メニューから [スリープ解除] 選択し、▶ボタンを押すと LinkStation のスリープが解除されます。

EPG データ取得

初期設定メニューから [ネットワーク設定]-[EPG データ取得] 選択し、▶ボタンを押すと、EPG（電子番組表）のデータを最新内容に更新します。EPG データの取得には、数分かかります。

プロキシ設定

初期設定メニューから [ネットワーク設定]-[プロキシ設定] 選択し、▶ボタンを押すとプロキシ設定画面が表示されます。

設定項目	設定内容
プロキシ	利用する、利用しないを選択します。
IP 設定	プロキシアドレスを入力 (プロキシを [利用する] としたときのみ有効）します。
ポート設定	ポート番号を入力 (プロキシを [利用する] としたときのみ有効）します。

iCommand で録画予約しよう

テレビ王国ホームページのサービス iCommand を利用して、外出先のパソコンや携帯電話などからリモート録画予約することができます。
iCommand での録画予約手順は、USB キャプチャ BOX に付属のマニュアルをお読みください。
パソコンに USB キャプチャ BOX のユーティリティ CD をセットし、簡単セットアップから [iCommand での録画予約手順 (または iCommand(Link de 録 !!) 補足説明)] を選択し、[開始] をクリックすると表示されます。読みにくいときは、印刷してお読みください。

テレビ王国ホームページ　http://www.so-net.ne.jp/tv/

※本ソフトウェアはソニー株式会社の iCommand 技術に準拠しています。尚、iCommand、iRCommander、及びテレビ王国はソニー株式会社の登録商標又は商標です。

困ったときは

電源が入らない

原因①：
電源コードがコンセントまたは本製品から外れている
対策①：
電源コードはコンセントおよび本製品に接続してください。

映像や音声が出ない

原因①：
テレビの接続が間違っている
対策①：
正しく接続してください

原因②：
入力を正しく選択していない
対策②：
テレビの入力を「ビデオ」にするなど、本製品を接続した入力を選択してください。

原因③：
本製品やテレビのミュート (消音) が有効になっている
対策③：
リモコンの [ミュート] ボタンを押して消音機能を無効にしてください。テレビの消音機能を無効にする手順はテレビに付属のマニュアルを参照ください。

原因④：
DirectX が破損している、または削除されている
対策④：
付属の CD をパソコンにセットし、簡単セットアップから [DirectX のインストール] を選択してください。以降が画面のメッセージにしたがって DirectX を再インストールしてください。

リモコンで操作できない

原因①：
電池が入っていない
対策①：
電池をリモコンにセットしてください

原因②：
電池が消耗している
対策②：
新しい電池と交換してください

原因③：
電池の入れ方が間違っている
対策③：
電池の極性（+、−）を確認して、正しく入れてください

原因④：
リモコンをテレビに向けている
対策④：
リモコンは本製品に向けて操作してください。

原因⑤：
リモコンと本製品の間に障害物がある
対策⑤：
障害物をなくすか、避けてお使いください。

原因⑥：
リモコンと本製品の間隔が遠い
対策⑥：
リモコンを本製品に近づけて操作してください。

登録フォルダに入れたファイルを認識できない

原因①：
ファイル名に半角カタカナを使用している
対策①：
ファイル名に半角カタカナが使用されていると認識できません。ファイル名を変更してください。

原因②：
ファイル名に 2 バイトコード文字（全角文字）を使用している
対策②：
ファイル名に 2 バイトコード文字が使用されていると正しく表示されない場合があります。正しく表示されない場合は、ファイル名を変更してください。

起動画面が表示されない、本製品でパソコンが認識できない

原因①：
LAN ケーブルが接続されていない
対策①：
本製品およびパソコンに LAN ケーブルが接続されているか確認してください (カチッと音がするまで差し込んでください)。接続した後は、本製品の電源を切った後、再度電源を入れてください。

原因②：
ケーブルが間違っている（パソコンと直接接続する場合）
対策②：
パソコンと本製品を直接する場合は、クロスケーブルが必要です。クロスケーブルで接続してください。接続した後は、本製品の電源を切った後、再度電源を入れてください。

原因③：
本製品付属ソフトをインストールしていない
対策③：
付属 CD をパソコンにセットし、簡単セットアップから [PC-P1LAN　Utility のインストール] をクリックし、インストールしてください。

原因④：
PPPoE 接続ツール（フレッツ接続ツールなど）がインストールされている
対策④：
PPPoE 接続ツールをアンインストールしてください。

原因⑤：
起動サーバが起動していない
対策⑤：
[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[PC-P1LAN]-[起動サーバ管理ツール] をクリックし、自分のパソコンのコンピュータ名が表示されているか確認してください。
表示されないときは、付属 CD をパソコンにセットし、簡単セットアップから [PC-P1LAN Utility のインストール] をクリックし、再インストールしてください。

原因⑥：
ルータやアクセスポイントが故障している
対策⑥：
どうしてもルータやアクセスポイントに接続した環境で認識できないときは、「はじめにお読みください」を参照して、パソコンと直接本製品を接続してお使いください。

原因⑦：
IP アドレスが間違っている
対策⑦：
「ルータをお持ちでない方へ」(P19) を参照して、本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレス「***.***.***.;;;」（「*」や「;」は数字）の ** 部分が同じであることを確認してください。
例えば、本製品の IP アドレスが「192.168.11.51」の場合、パソコンの IP アドレスが「192.168.11.61」などになっていることを確認してください。

原因⑧：
ファイヤーウォール機能を持つソフトがインストールされている
対策⑧：
ファイアウォールの機能が有効となっている場合、本製品からパソコンを認識できないことがあります。この場合は、ファイアウォール機能を無効にするか、**UDP ポート「59821」「59823」**と**TCP ポート「8888」「9666」「9667」「58080」「58001」「59824」**の使用を許可するか、ファイアウォールを設定しているソフトをアンインストールしてください。
設定に関する手順については、ソフトメーカーにお問い合わせください。以下では、ファイヤーウォール機能を無効にする手順を例として記載します。

【トレンドマイクロ社ウイルスバスター 2006 ファイアウォール無効手順】
以下の手順で「パーソナルファイアウォール機能」を無効にしてください。
本製品の使用が完了したら、再度「パーソナルファイアウォール」を有効にしてください。

1. 画面右下のタスクトレイ内に表示される「ウイルスバスター 2006 」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから［メイン画面を起動］をクリックします。
2. メイン画面内の［不正侵入対策 / ネットワーク管理］をクリックし、カテゴリ画面から［パーソナルファイアウォール］をクリックします。
3. 「パーソナルファイアウォール」画面より［パーソナルファイアウォールを有効にする］のチェックボックスをクリックし、チェックの表示を消します。
4. ［適用］をクリックし、メイン画面を終了します。

以上で設定は完了です。

【Norton Internet Security 2006 ファイアウォール無効手順】

以下の手順で Norton Internet Security を無効にしてください。
本製品の使用が完了したら、再度「Norton Internet Security」を有効にしてください。

1. 画面右下のタスクトレイ内に表示される「Norton Internet Security 2006」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから［Norton Internet Security を無効にする］をクリックします。
2. ファイアウォール機能をオフにする期間を選択し、［OK］をクリックします。

以上で操作は完了です。

【Windows Vista ファイアウォール無効手順】

※ P39 のファイアウォールのブロックの解除を推奨します。

以下の手順で Windows ファイアウォールを無効にしてください。
本製品の使用が完了したら、再度「Windows ファイアウォール」を有効にしてください。

1. ［スタート］ー［コントロールパネル］をクリックし開きます。
2. ［セキュリティ］をクリックします。

※コントロールパネルをクラシック表示にしている場合、［セキュリティ］項目はありません。手順 3 へ進みます。

3. ［Windows ファイアウォール］の［Windows ファイアウォールの有効化または無効化］をクリックします。
4. [ユーザーアカウント制御] 画面で [続行] をクリックします。
5. [Windows ファイアウォールの設定] 画面の [全般] タブの [無効（推奨されません）] にチェックを入れ、［OK］をクリックします。

以上で操作は完了です。

【Windows XP SP2(サービスパック 2) ファイアウォール無効手順】

※ P39 のファイアウォールのブロックの解除を推奨します。

以下の手順で Windows ファイアウォールを無効にしてください。
本製品の使用が完了したら、再度「Windows ファイアウォール」を有効にしてください。

1. ［スタート］ー［コントロールパネル］をクリックし開きます。
2. ［セキュリティセンター］をクリックします。

※コントロールパネルをクラシック表示にしている場合、［セキュリティセンター］項目はありません。手順 3 へ進みます。

3. ［Windows ファイアウォール］をクリックします。
4. 「無効（推奨されません）」にチェックを入れ、［OK］をクリックします。

以上で操作は完了です。

映像、音楽、写真を再生できない

原因①
再生しているファイルの種類、画質、エンコード条件が本製品にあっていない

対策①
ファイルの種類や画質、エンコード条件によって本製品で再生できない場合があります。本製品で再生できる形式のファイルを再生してください (P3)。

原因②：
ファイルが壊れている

対策②：
ファイルが壊れている場合は再生できません。

原因③：
ベースライン JPEG 以外の JPEG ファイルを表示している

対策③：
本製品で表示できる JPEG ファイルは、ベースライン JPEG のみです。ベースライン JPEG ファイルを表示してください。

原因④
映像と音声がインターリーブされていない

対策④
インターリーブされていない AVI ファイルは再生できません。AVI ファイル作成時は、インターリーブする設定で作成してください。設定方法は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

原因⑤

[Use Quarter Pixel] または [USE GMC] オプションを有効にしてエンコードした DivX®5 形式のファイルを再生している

対策⑤

[Use Quarter Pixel] または [USE GMC] オプションを有効にしてエンコードした DivX®5 形式のファイルは再生できません。エンコードするときはこれらのオプションを無効にしてください。

原因⑥

著作権保護されたファイルを再生している

対策⑥

本製品は著作権保護されたファイルを再生できません。著作権保護されていないファイルを再生してください。

映像が正しく表示されない

原因①：

NTSC 方式以外のテレビ方式で記録された映像を再生している

対策①：

NTSC 方式以外の方式で記録された映像は正常に表示されないことがあります。

原因②：

本製品をビデオ機器を経由させテレビに接続している

対策②：

本製品にはコピープロテクション機能が搭載されており、ビデオ機器を経由させると再生映像が乱れる場合があります。再生映像が乱れる場合は、テレビに直接接続してください。

原因③：

本製品をビデオ機能を搭載したテレビに接続している

対策③：

本製品にはコピープロテクション機能が搭載されており、ビデオ機能を搭載したテレビに接続すると再生映像が乱れる場合があります。再生映像が乱れる場合は、ビデオ機能が搭載されていないテレビと接続してください。

再生するとコマ落ち、音飛びする

原因①：

本製品を接続したネットワークで他の機器が通信している

対策①：

本製品の再生中に他の機器で通信を行っていると、ネットワークが混雑しコマ落ちや音飛びすることがあります。コマ落ちや音飛びする場合は、他の機器の通信を終了してから再生してください。

原因②：

11Mbps の無線で接続している

対策②：

11Mbps の無線で接続している場合、3Mbps 以上のファイルを再生するとコマ落ちや音飛びすることがあります。

原因③：

再生したファイルの種類や画質、エンコード条件が本製品とあっていない

対策③：

ファイルの種類や画質、エンコード条件によってコマ落ちや音飛びすることがあります。本製品の条件にあったファイルを再生してください (P2)。

原因④：

ビットレートが 8Mbps を超えている

対策④：

P7 の手順でビットレートが 8Mbps 以下の MPEG-2 形式のデータに変換してください。

「古いバージョンの Java ランタイムを検出しました」と表示され PCast Media Server をインストールできない

原因①：

古いバージョンの Java ランタイムを使用している

対策①：

[コントロールパネル]-[アプリケーションの追加と削除] から現在使用している Java ランタイムを削除してください。

BUFFALO Media Server をインストールすると新しいバージョンの Java ランタイムも同時にインストールされます。

テレビで見たとき端 (外周部) の映像がカットされている、映像がずれて見える

一般的にテレビは映像信号の外周部を少しカットして表示するオーバースキャン表示方式を使用しています。テレビによってカットする量に差があり､お使いのテレビによっては､映像の端 (外周部) がカットされて見えたり、映像が左右または上下にずれて見えることがあります。

PCast Media Server がブロックされて本製品でパソコンを認識できない (Windows Vista/XP)

付属ソフトのインストール後、パソコンを再起動したとき、「このプログラムをブロックし続けますか ?」と表示されることがあります。
このようなときは、[ブロックの解除] をクリックしてください。

[後で確認する] をクリックしてしまった場合
PCastMediaServer を再起動してください。再び「このプログラムをブロックし続けますか ?」と表示されます。[ブロックの解除] をクリックしてください。

[ブロックする] をクリックしてしまった場合
次の手順でファイアウォールの設定を変更してください。

Windows Vista

1. [スタート]-[コントロールパネル] をクリックします。
2. [セキュリティ] の [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] をクリックします。
3. [ユーザーアカウント制御] 画面で [続行] をクリックします。
4. [Windows ファイアウォールの設定] 画面の [例外] タブの中の [プログラムまたはポート] の中の [BUFFALO MediaServer] にチェックを入れて [OK] をクリックします。

Windows XP

1. [スタート]-[コントロールパネル] をクリックします。
2. [ネットワークとインターネット接続]-[Windows ファイアウォールの設定を変更する] をクリックします (または [Windows ファイアウォール] をダブルクリックします)。
3. [例外] タブをクリックします。
4. [BUFFALO MediaServer] のチェックボックスをクリックし、チェックマークを表示させます。[OK] をクリックします。

LinkStation が見つからない (Link de 録 !!)

原因①
LinkStation が正しく設定されていない
対策①
メディアサーバ機能の設定を「利用する」にしてください。
弊社ホームページから LinkStation の最新版ファームウェアをダウンロードし、アップデートしてください。

原因②：
間違った IP アドレスを設定している
対策②：
本製品の設定画面 [システム設定]-[有線ネットワーク設定]-[プロファイル編集] で LinkStation と同じネットワークのローカルアドレスを設定してください。

TV 視聴時、追っかけ再生時に画面が真っ黒になる (Link de 録 !!)

再生・録画形式が MPEG4 となっていると本製品では正常に表示できません。画質設定で MPEG2 に設定してください。

EPG（電子番組表）が表示されない (Link de 録 !!)

本製品を接続しているネットワークがインターネットに接続されているかご確認ください。接続されていないと EPG データを取得することができません。

用語集

• AVI

Microsoft 社が Windows 用に開発したデジタルファイルフォーマットです。AVI 形式 (コーデックを使用しない）で録画した場合、映像の圧縮を行わないため録画したファイルの容量が大きくなります（320 × 240 の解像度で録画した場合、30 分で約 5GB 必要です)。編集ソフトなどで簡単に加工できる特長を持ちますが、長時間録画を行うと映像と音声がずれることがあります。

• CBR：Constant Bit Rate（固定ビットレート）

録画のとき常に同じビットレート（データ量）で録画します。そのため、動きの多いシーンなどでは動きの少ないシーンに比べ画質が落ちることがあります。また、動きが激しい場面では、ビットレートが足りない場合にブロックノイズが発生することがあります。

• CQ : Constant Quality（固定品質）

映像品質を一定に保った状態で、ビットレートを自動的に変動させ録画します。

映像によってビットレートが変動するため、録画する映像によって録画したファイルの容量が大幅に変わります（動きが多い映像ほど容量が大きくなります)。

• CVBR ：Constrain Variable Bit Rate（可変ビットレート）

あらかじめ設定した範囲のビットレート（データ量）で録画するモードです。動きが多いときはビットレートが高くなり、動きの少ないときはビットレートを低くして録画を行います。本製品では、（平均）ビットレート、最大ビットレートを指定でき、(平均) ビットレートの値を平均値として録画を行います。

• MPEG

Moving Picture Expert Group（通称 MPEG フォーマットフォーラム）が定めた動画圧縮の国際規格です。MPEG フォーマットは、映像と音声を別々に圧縮する方法が採用されており、DVD-Video や Video-CD にも使われているフォーマットです。MPEG フォーマットには、「MPEG-1」「MPEG-2」などいくつの形式があります。

• MPEG-2

MPEG-1 フォーマットで蓄積されたノウハウを活かし、より画質を向上させたフォーマットです。DVD-Video の形式に用いられています。

• WMV

Windows Media 形式の映像ファイルです。

• コーデック（Codec）

コーデックとは符号化 (coding) と復号 (decode) を纏めて呼んだものです。映像や音声を圧縮・伸張するプログラムで、パソコンで映像を再生・保存するのに必要なものです。コーデックには様々な種類があり、映像ファイルによって必要なコーデックが異なります。もし、ファイルに適したコーデックがパソコンにない場合には、映像が表示されなかったり、音声が出力されないことがあります。

• ビットレート

画質を決定する値です。ビットレートが高くなると画質が向上されますが、録画ファイルの容量が大きくなります。

仕様

メモ　最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ（buffalo.jp）を参照してください。

有線 LAN インターフェース	
対応規格	IEEE802.3/IEEE802.3u 準拠（10BASE-T/100-BASE-TX）
転送速度	10/100Mbps（オートセンス）
コネクタ形状	RJ-45 型 8 極コネクタ
外部出力	
フォーマット	NTSC（日本国内仕様）
コンポジットビデオ	RCA ピンジャック× 1（黄色）
アナログオーディオ	RCA ピンジャック× 2（左：白色　右：赤色）
BUFFALO MediaServer	
対応パソコン	Ethernet ポートを搭載する DOS/V 機 (OADG 仕様)、 および NEC PC98-NX シリーズ
対応 OS	Windows Vista(32bit)、Windows XP、Windows 2000 SP4 以降 ※ Windows 2000 SP4 をお使いの場合、WindowsUpdate にて最新の状態にしてください。最新の状態でないと正常に動作しないことがあります。
CPU	Windows Vista: 最新のプロセッサ 2GHz 以上 Windows XP/2000:Pentium3 800MHz または同等性能以上の互換 CPU ※ MPEG-2、MP3 以外の動画や音声ファイルを再生するには、P3 に記載の動作環境が必要です。
メモリ	Windows Vista:512MB 以上 Windows XP/2000:256MB 以上 ※ MPEG-2、MP3 以外の動画や音声ファイルを再生するには、P3 に記載の動作環境が必要です。
ハードディスク	50MB 以上の空き容量 ※ MPEG-2、MP3 以外の動画や音声ファイルを再生するには、4GB 以上の空き容量が必要です。
ネットワーク	Ethernet ポート（100BASE-TX/10BASE-T）
その他	
使用電源	AC100V　　50/60Hz
消費電力	平均 5W 最大 6W
動作環境	温度 0 ～ 40℃、湿度 10 ～ 50%（結露なきこと）
外形寸法	220(W) × 47(H) × 124(D) mm（ゴム足含む）
重量	0.6kg
対応 LinkStation/TeraStation	弊社製 HS-DGL シリーズ、HS-DTGL シリーズ、 HS-DHGL シリーズ、HS-DHTGL シリーズ ※ MPEG-2、MP3 以外の動画や音声ファイルは再生できません。

表示ランプの仕様

電源ランプ	
緑色点灯	電源 ON 時
橙色点灯	電源スタンバイ時
LINK ランプ	
緑色点灯	LAN リンクアップ時 点灯、LAN リンクダウン時 消灯
赤色 2 回点滅	システム異常です。弊社サポートセンターへご連絡ください。
赤色 3 回点滅	有線 LAN 異常です。LAN ケーブルを接続しなおしてください。
赤色 5 回点滅	サーバ異常です。以下の事項をご確認ください。 ・[スタート]-[(すべての) プログラム]-[BUFFALO]-[PC-P1LAN]-[起動サーバ管理ツール] をクリックし、自分のパソコンのコンピュータ名が表示されているか確認してください。 表示されないときは、付属 CD をパソコンにセットし、簡単セットアップから [PC-P1LAN　Utility のインストール] をクリックし、再インストールしてください。 ・パソコンの起動ハードディスクの [ProgramFiles]-[BUFFALO]-[PC-P1LAN]-[BootServer]-[firm] フォルダに uImage ファイル、initrd.boot ファイルがあるかご確認ください。付属 CD をパソコンにセットし、簡単セットアップから [PC-P1LAN　Utility のインストール] をクリックし、再インストールしてください。